中央保育所・幼稚園だより

あったかサン

令和８年５月２９日
出雲市立中央保育所・幼稚園
所長・園長　　秦　純子

「遊びが学び」となる幼児教育

保育所幼稚園での保育教育において大切にしていることは子どもたちの「やってみたい！」という主体的な姿、**学びの芽**です。一見、ただ楽しく遊んでいるだけのように見える姿の中に、「生きる力」につながる深い学びがたくさん詰まっています。
幼児期における「**遊び**」は「生涯にわたる**生きる力の基礎**を培うための重要な**学び**」と位置づけられています。

１歳児さくらんぼ組

新聞紙（身近な素材）の遊びでは、ビリビリ（破る）、ガサゴソ（隠れる）、ヒラヒラ（散らす）等、五感や体、指先を使って、感触を存分に味わいます。

築山の傾斜を踏ん張ったり、四つ這いになったり、お尻をついたりして、登り降りします。バランスをとったり、力をいれたりして遊びの中で体の使い方を知っていきます。

２歳児いちご組

水の温泉。偶然一緒に入った友達とにっこり笑顔。気持ちよさを共に感じています。一緒だから楽しさも倍になります。

袋に風を集めてフワフワフワ・・・風の心地よさ、袋の動きのおもしろさ、走る楽しさを遊びの中で体験しています。

３歳児みかん組

キャベツの中にいた青虫が蝶々になった感動体験から、自分も蝶々や青虫になりきって表現することを楽しんでいます。

「どうぞ」「ありがとう」「おいしいね」…遊びの中で言葉のやりとりが生まれます。

４歳児りんご組

身近にある草花を使って色水遊び。毎日繰り返しやってみるうちに、指先を使ってもんだり、道具を使ったりして色を出すことがどんどん上手くなっていきます。緑、黄色などの色の違い、香りへの気づき、振った時の音などにも関心をもち、直接体験の中で様々なことを得ていきます。

大好きなダンゴムシと関わる中で、ダンゴムシの好きなものや住みやすい環境を知り、大切に育てています。体を丸めたり、逆さまになって綱渡りをしたりするダンゴムシの特徴に驚いたり、そこからイメージして遊びに取り入れながら自分なりの表現を楽しんだりしています。

５歳児ぶどう組

紙飛行機への興味から、より飛ぶものを作りたいという思いをもち、折り方や飛ばし方を何度も繰り返し試しています。「的を作ってねらおう」「あの間を通したい」など次々新たなめあてをもって取り組んでいます。

園外保育で登った一の谷公園の展望台を作りました。「もっと高くしようよ」「そこ持ってて」「ここを通り抜けることにしよう」などと自分の考えをもち、それを友達に伝えながら１つのものを作っていきます。

幼児期の主体的な遊びの中で育まれる、好奇心や探求心、粘り強く考えたり、工夫したりする力、友達と対話をしたり、協力したりする力は、小学校以降の学習の基礎となる、とても重要な力です。

子ども達の「**主体的な遊び**」のために私たち保育者は、子どもの興味・関心を生かした**環境の構成**（環境づくり）を工夫しています。
ここで言う環境とは、ヒト（友達、保育者、家族、地域の方々等）、
モノ（草花、生き物、絵本、素材等）、
コト（行事、園外保育体験等）という、子どもを取り巻く全ての要素を指します。
幼児教育は「**環境を通して行う教育**」です。直接的・具体的な体験の充実を図り、子ども達の「やってみたい！」という意欲を引き出し、夢中になって遊び込んでいけるような環境を絶えず見つめ直していきたいと考えます。